



役割の押し付けではなく個性で育てる

私は4人きょうだい(全員男)の三男坊として生まれました。出生順位や性別は自分が望んだわけではなく、偶然の結果と言えます。幼少の頃より、自由に伸び伸びと育てられ、よく言えば放任主義的な環境の下、成長したという実感があります。

最近、子育て世代の保護者の方からよく耳にし、気になるのが「お兄ちゃんだから、もっとしっかりしなさい。」とか「お姉ちゃんだから、我慢しなさい。」などの子供に役割を押し付ける言葉です。この言葉は、子供たちの成長にとっては、諸刃の刃と化す場合があります。また、「男だからめそめそするな。」「女だから大人しくしろ。」と性別で役割を期待することも同じだと言えるでしょう。これらの言葉は、ややもすると個性をつぶしかねません。

教師という立場で、子供たちとかかわってきて、その子供たちが中学校、高校、そして大学、社会人という成長過程を見守っていく中で、中には道を誤ってしまう子供もいます。その子供に話を聞くと「長男なんだから、女として、〇〇家の人間として…。」などと言う、本人にはどうしようもない役割を与えられ、小さなプレッシャーの積み重ねから、自分自身を抑圧し、どこかに無理を生じさせていたというケースもあります。

子供は親からの期待を嬉しく思います。前例のようにきょうだいのお手本になろうと勉強もするし、習い事にも真剣に向き合おうとします。しかし、何かをきっかけに一気に自信を失ったり、気持ちが爆発したりするのです。そこで、本人の性格や個性に基づく期待の仕方に考え方をシフトしてみましょう。「あなたは人の話をしっかり聞いて、まとめるのが上手だから、リーダーとして頑張ってください。」

「あなたのお手伝いする姿は、家族に役立って本当に感謝しているよ。」こういう期待は、個性を伸ばすことに繋がるでしょう。

生まれ持ったの本人の努力では変えられぬ役割や性別による声掛けより、個性を認め、伸ばす声掛けや、子供自身が選んだ役割の中での頑張りを認め励ます声掛けをすることで、子供たちの小さな成長に気付いていくと思います。



老人会からの贈り物

今日8日(木)、老人会から雑巾の寄贈がありました。毎年、老人会から雑巾の寄贈があり、学校ではとても重宝しています。老人会がこの取り組みを始められて、今年で10年以上経っているということでした。今年度の雑巾は、全部で116枚もあり、手縫いやミシンで作られた、心のこもった手作り雑巾です。この雑巾を使って、子供たちの「帯西イエローの心」の「進んでみんなのために働く」心を伸ばすことができるようにしたいと思います。老人会の皆様、手作り雑巾の贈り物、本当にありがとうございました。

